

第2回京田辺市複合型公共施設整備基本計画検討懇話会

議事録要旨

<施設全般について>

- ホールと公民館を一体的に利用したいときに、うまく借りられるようにしてほしい。
- ホールと公民館それぞれの機能がハードとして融合できても、実際に使う際に上手に使えるように。運営面の課題について、よく議論検討してほしい。
- 新しい施設では部屋の取り合いにならないように。
- コストダウンだけの話ではなく、民間の力を活用する事も考えてもらいたい。

<文化ホールについて>

- 舞台のサイズが十分であればオーケストラ利用についても可能である。
客席は400席程度あれば満席にもなり参加者にも喜んでもらえるので、400席でも良い。
- 舞台の広さをしっかり確保できれば、使う団体は多いと考える。
- 舞台サイズについて、予算の関係でサイズを小さくした結果、使えないというのは避けたい。
- 今回提示されている舞台サイズは、オーケストラで50名くらいであれば乗るのではないかと。プロの楽団は会場に合わせて編成を変えてくるので、音響がよいホールであれば、興行で来てもらえる。
- ホワイエについて、固定のソファは使い勝手が限定されてしまう。テーブルがあると使い勝手が良くなるし、イス自体も動かせるとなおよい。
- ステージが6間サイズで客席数300人以上であれば、市民活動としては、ミニマムだが良いと思う。
- ホワイエについては、広い方がよいが単独であるのはもったいない。普段はフリースペースとして使うのはよいと思う。
- ホワイエに関して、基本はフリースペースで、ホール利用するときだけ仕切れるようになっている方が運用としては望ましい。
- ホワイエの利用としては、ロビーコンサートができるようになると良い。ピアノ倉庫とホワイエが動線でつながっていると、楽器が運搬しやすく利用しやすい。
- 可動席をやめると工事金額は下がるのではないかと。

＜公民館（生涯学習）について＞

- 水を利用した場合でも新しい施設を汚さないように、仕上げに配慮してほしい。
- サークルによっては、人数が多いところもある。それぞれに合わせた部屋があると良い。
- 子育て系の活動では、小さなこどもが安心して遊んだりできることを考えると、土足でない方が良く考える。
- 広いリハーサル室があればと思う。

＜図書館について＞

- 対面朗読室などの共用は難しい。
重ねづかいというのは大賛成だが、日によって自習室や読書室が異なる場所になってしまう懸念がある。
- 蔵書数28万冊は妥当。開架率40%は悪くない。問題は、選書等運営が重要。専門の人材に運営してもらえるのであれば、冊数は問題ではない。
- 児童書を増やすのは良いと思う。お話の部屋などで過ごすときに必要な本が充実されればと思う。読書室の運営については他の機能と併せて検討してもらいたい。
- 今回の施設においては中央図書館であるため、従来型の配架がよい。
- どうしても賑やかな空間になりがちなので、小さくても静寂読書室の設置を。
- 最近では、静寂読書室は小さく設置しておいて、施設全体的には会話しても大丈夫な図書館が使いやすいとされている。
- 読書離れの中、若い人が来やすくしてほしい。コーヒーを飲みながら、また、友達と話しながら本を読めるスペースがあると、これまで来なかった人が来るようになるのではないかな。
- 複合型公共施設であって、広場がある。本を借りて広場で読むこともできる。しかし、広場機能を図書館に入れこんでいくと、図書館機能が成立しないという難しい部分もあるので、棲み分けはしてほしい。
- 飲食も含めて様々なタイプの図書館がある。開館時間もその一つ。考えを狭めず、検討して欲しい。

＜共用部について＞

- 在宅で仕事をすることがあるが、京田辺市周辺になかなか場所がない。会議で通話する時などは個人ブースがほしい。在宅ワークをするのは40～50代の方々を取り込むためにも、ぜひ検討してほしい。
- 家だと子供もいるので近くに個別ブースがあるとありがたい。声をだせるように防音にしてもらえると嬉しい。
- フリースペースは使いたいときにいろいろと使えるということだと思うが、ここに寄ると何か面白い情報があるとか、魅力的なものになれば、より良いのではないかな。いつも人が集まっていて、楽しい雰囲気が作れると良い。
- 打合せ等ができるスペースがあると大変助かる。少人数でPCを持ち込んで話ができるようなスペースがあるとありがたい。Wi-Fi環境も必要。
- 屋外広場について、屋根は欲しい。雨の時にこどもを外で過ごせたり、ご飯を食べれる場所として、屋根があると良い。
- もしホワイエを外に対して開けるのであれば、一体的に使用して演奏会等も出来るのではないかな。
- 屋外スペースを芝生にしてもキッチンカーが並べられるような誂えに。
- 小さな子どもには芝生がいいと思う。裸足で遊べる場所があると良い。
- 屋内外がつながっていて、こどもが外で遊ぶのを見ながら中で活動できると助かる。
- 大学図書館だとラーニングコモンズが流行っている。近くの関係のないグループの話を聞き、刺激をうけたり、創造したりして、話題が広がっていくということもあるので、多くの方が使える共用部を作ってほしい。
- 目的性を持ってきてもらえる様に、カフェやレストランといった飲食店が併設されるということもあると思う。

＜管理運営機能について＞

- ハードの話だけでなく中身の話が重要である。どういう企画をするのかなど、コーディネーターなどの議論が必要。
- 市民を巻き込むという視点も欲しい。
- できれば我々のような市民に任せてもらいたい。6年後の開館時を目指して、人材育成を進めていきたいと考えている。そういう視点で管理事務室とは別の広場に面したところなどに事務局機能があるといい。

- 図書館機能の組織として、子どもに対するサービス、レファレンスサービスなど、色々なサービスを設計するのに専門の方々が考える必要があるが、場所については同じでも構わない。

＜こども支援機能について＞

- 事務局機能、子ども支援機能について、子どもが集える場所に子育ての所管課や助産師、保育士など専門の方などいろいろな方がいると居やすい空間になるかと思う。
- 相談窓口は行きやすい場所にあるのがありがたい。託児があるとうれしい。催しをやっているときに、託児してもらえると嬉しい。
- 図書館にやってくるお母さんたちは本を読む人が少ない。そういう方々が沢山きて、託児してもらい、本を読めるというのは、施設をまとめる一つの視点ではないか。

＜その他＞

- 図書館に行けない地域住民もいるので、移動図書館サービスの継続を。

以 上。